



LINGERIE FRANÇAISE EXHIBITION

フレンチ・ランジェリー展
TOKYO 2014

AUBADE • BARBARA • CHANTELLE • EMPREINTE
IMPLICITE • LISE CHARMEL • LOU • MAISON LEJABY
PASSIONATA • PRINCESSE TAM.TAM • SIMONE PÉRELE

July 20-28th, 2014

2014年 7月 20日 - 28日

BA-TSU ART GALLERY

〒150 - 0001 - 東京都渋谷区神宮前5-11-5
www.lingeriefrancaise.jp

LINGERIE
FRANÇAISE

PARIS



PRESS KIT

目次

ごあいさつ	3
フレンチ・ランジェリー展のコンセプト	4
発起人	5
スポンサー & パートナー	6
展示作品のご紹介	7
ノウハウ	15
フォトギャラリー	16
イベント概要	28

ごあいさつ

フレンチ・ランジェリー協会はコルセットから始まったフレンチ・ランジェリーの歴史と功績を称え特別展を開催します。

今回初めて、100年以上に及ぶフレンチ・ランジェリーの歴史を振り返るため、コルセット職が全ブランドのアーカイブからヴィンテージの所蔵品を集めて展示します。

フレンチ・ランジェリー展では、トップブランドのアーカイブを通してフレンチスタイルのアイコンである、知的で、美しく魅惑的なフレンチ・ランジェリーの世界観をお伝えします。今回出展のトップブランドは、生地的美しさを最大限引出しつつ、新しい作品を次々と生み出してきました。そして歴史的意義のあるコレクションを通じて創造とデザインというフレンチ・ランジェリーの世界観やストーリーを伝えているのです。

こういった芸術的遺産を後世に伝えていくことこそが、フレンチ・ランジェリー協会の使命です。今回の展覧会では「伝える」という点にフォーカスしており、その意味で非常に重要で有意義な展示会となっています。

今回の展覧会多大なるご協力をいただいたパートナーの皆様にご感謝申し上げます。本展覧会のキュレーターであるキャサリン・オーメンのファッション史、特にランジェリーの歴史に対する情熱は素晴らしく、周囲の人を惹きつける力があります。また、この展覧会はDEFI (服飾開発推進委員会)の協力なしには実現できませんでした。

ぜひ世界中の方々にこの素晴らしい展覧会を見て頂ければと思います。

フレンチ・ランジェリー協会
プロミンコール代表
フィリップ・ベルソー

フレンチ・ランジェリー展のコンセプト

フレンチ・ランジェリー展は、現在世界各地を巡り、フランスの豊かなクリエイティビティと巧みな職人技を紹介しています。パリ、ロンドン、上海、ドバイ、ベルリン、ニューヨーク、トロント、そしてモスクワでの展示に続き、フレンチ・ランジェリー展がついに東京に上陸します。フレンチ・ランジェリー協会の主催で、7月20日から28日まで東京のバツ・アート・ギャラリー（BA-TSU ART Gallery）にて、フレンチ・ランジェリーの歴史展を開催します。一般のお客様からファッション界の専門家まで世界中のどなたでも無料でご覧いただけます。本展覧会ではフレンチ・ランジェリーの知性、そして創造性にスポットを当てて展示いたします。

AUBADE, BARBARA, CHANTELLE, EMPREINTE, IMPLICITE, LISE CHARMEL, LOU, MAISON LEJABY, PASSIONATA, PRINCESSE tam.tam, SIMONE PÉRÈLE などのブランドのコレクションから過去のアーカイブを紐解くことで、世界中の何百万もの女性が愛用してきたヴィンテージ・ランジェリーについて語る事が可能になりました。

展覧会では、1880年代から次世代のクリエイションまでの歴史を辿ります。フレンチ・ランジェリーの長い歴史において最も象徴的な作品を中心にした展示に加え、歴史に息吹を吹き込む各時代の印象的な広告映像やフィルム、フォトグラフィーの上映を行います。ここで語られるストーリーは、時系列かつテーマ別になっています。"La Ptite Histoire" 事務所がデザインした什器は非常にモダンで、ミニマリズムを追求し洗練されたものとなっています。展示され130点のランジェリーは1つ1つ個別に展示されていますが、テーマ別に配置されています。つまり、それぞれ個々のスペースが集まり、全体としてのストーリーを描いているのです。ショーは、歴史を超えたストリップショーの実物大ホログラム・マジックから始まります。特別な演出として、モデルが着用している下着が女性のシルエット、ボディランゲージ、そしてもちろん各時代のランジェリーの進化の道を表すように形を変えていきます。この展覧会の内容はプロン(Plon)社から出版された挿絵入りの本でもご覧いただけます。フランス語版と英語版の2か国語で販売しており、定価は25ユーロです。ソーシャルネットワーク上の告知と同時に "Promincor - Lingerie Française" Association (www.lingeriefrancaise.com / www.lingeriefrancaise.jp) のサイトでもこの展覧会の様子を映像でご覧いただけます。

発起人

プロミンコール – フレンチ・ランジェリー協会

「プロミンコール-フレンチ・ランジェリー協会」として知られるランジェリーの製造販売業界のプロモーションを目的とし、次の17のフランス製ブランドを取りまとめている協会。取扱いの17ブランドは、*ALLUMETTE, AUBADE, BARBARA, CHANTELLE, PASSIONATA, EMPREINTE, LISE CHARMEL, ANTIGEL, ANTINÉA, EPRISE, LOU, MAISON LEJABY, PRINCESSE tam.tam, ROSY, SIMONE PÉRÈLE, IMPLICITE* になります。

1970年に結成されたこの協会の目標は、世界の舞台でランジェリーブランドが意見を一つにできるように集約すること、また業界関係者及び一般の人々にも業界の様々な側面を見せることにより業界全体の発展を図ることです。様々なブランドが専門的なトレードショーに共同出展者で参加したり、ファッションショー、ショーケースや、プレスコンファレンス、また展覧会、出版物や、回顧展など文化的なイベントの企画運営を行っています。

キュレーター：キャサリン・オーメン (Catherine Ormen)

ファッション美術史の専門家であり、キュレーターであるキャサリン・オーメンはファッションに関するたくさんの書籍を執筆。代表作品に「ランジェリーの歴史 (The History of Lingerie (with Chantal Thomass))」がある。

ビジュアルアート：ドミニク・ヴェラスコ (Dominique Velasco)

エコール・ブール国立工芸学校で学んだデザイナー。自身のデザインスタジオの代表を務め、国際ランジェリーサロン(The Salon International de la Lingerie)、上海ランジェリーモード展(Shanghai Mode Lingerie)、モード・シティ・トレードショー(Mode City Exhibition)のビジュアル・イメージャリーやセットのデザインなど、手がけた作品は多岐に渡る。

カメラマン：ジル・ベルケ (Gilles Berquet)

芸術アカデミー (Beaux Arts academy) で学んだ後ベルケは写真に夢中になり、カメラでの表現の世界にのめり込む。1980年代には伝説的なファッション誌「Jardin des Modes」のための作品、特にランジェリー特集向けの作品を数多く撮影。女性の体型にフォーカスを当てたビジュアルアーティストとして彼の作品が世界的に有名になり、2008年にサンクト・ガレン テキスタイル博物館 (スイス) で行われた女性のランジェリーの歴史について展覧会「シークレッツ (Secrets)」のために作品を撮影。シンプルな方法でランジェリーを撮影する独特の手法が有名になる。

スポンサー & パートナー

Défi – La Mode de France (フランス服飾開発推進委員会)

アパレルの発展とプロモーションを目的とした委員会。フランスアパレル業界のプロモーションとその製品、専門技術、この分野の中心的企業について国内だけでなく特に海外に発信していくことを目標としている。当展覧会主催者であるプロミンコールの後援団体。

The French Knitting and Lingerie Federation

(フランスニット&ランジェリー連盟)

生地、アパレル製造、バイヤー、ブランド、小売店など、プロジェクトやマーケットに関して同一政策の下協力し合う連盟。テキスタイル・アパレル業界の様々な分野の企業120社を集め、独特のコミュニティを形成。

当プロジェクトは上記オーガナイザーやメインスポンサーの他にもたくさんの協力をいただいています。ユーロヴェット社はモード・シティ&カーブ・トレード・ショーを含むあらゆるランジェリーの国際見本市に携わっています。

展示作品のご紹介

私の愛しのコルセット 初期の頃

この展示会の歴史は19世紀、コルセット全盛期の時代から始まります。フランスは当時、すでにファッションセンスの高さとコルセットの専門技術の高さで知られており、この分野では世界での輸出量第1位を誇っていました。

コルセットは、それまで長い間女性の身体的「か弱さ」を補い、女性の熱情を抑えてきたボーン入りバスク（体に密着したキャミソールのような女性用肌着）の後継モデルとして考案されましたが、理想的なシルエットを創り出せる一方、非常に動きにくいものでした。下着と洋服の重みで、女性は美しいシルエットと引き換えに何も動けないものになってしまっていたのです。

コルセットの形状の固さの問題を解決するため、1880年代に製造メーカーは伸縮性のある生地を使って柔らかさを実現するため、新しい技術を導入しました。これはまさにドクター・バーナード（オーバドゥの創始者）が1875年に行ったことでした。さらに、100年後の1949年にはシャンテルの前身となるストレッチニット会社の社長ガミションが手掛けようとしたことでした。当時人気のあった「健康によい下着」はレジャビーの姉妹ブランド、ラスレイルの得意分野でした。

20世紀に入るところには、コルセットは大きな壁にぶつかります。スポーツが盛んになり、社会的には「健康志向」という大きなトレンドが起こります。コルセットはバストをアップさせ、ヒップを後ろに大きく押し出し、「S」字のようなシルエットを創り出します。しかし、1905年からコルセットはファッションでも主流になりつつあったエンパイア・シルエットに合うよう、形を変え始めます。このシルエットは1906年にクチュリエのポール・ポワレにより有名になりました。コルセットはバストラインの下から太ももの真ん中あたりまでの長さになり、ベル・エポック時代の終わりごろに向けてシルエットは細身になり、動きやすさを増すために服はボディラインに沿ったものではなくなっていました。この頃からバスト・サポートの問題が出てきます。

史上初のブラジャーはエルネミー・カドール（*Herminie Cadolle*）のトレードマークとして1889年に発表されましたが、この新しい下着の広告が登場したのは1905年になってからのことでした。ブラジャーまたはバスト矯正下着などと呼ばれ、貴重価値の高いこの下着の現物がシャンテルのコレクションに所蔵されており、今回の展覧会でご覧いただくことができます。この「バスト矯正下着」はウェスト・シンチャー（腰の部分をきつく引き締める腹帯のようなもの）の役割を果たし、ガーターでストッキングを抑える短いコルセットと一緒に着用されました。この二つのパーツに分かれたコルセットが第一次世界大戦の間主流となり、「コルセット」ではなく、「ブラ」または「ブラジャー」と呼ばれるようになり、ガーターベルトとセットで着用されるようになりました。

ホワイト、ヌード、ピンク、そしてガードル

ガードルの一人勝ち

戦時中はガードルの一人勝ち時代です。ガードル初期の頃の1920年代、ガードルはベルトに伸縮性のあるバンドがついていて、お腹とお尻を平らに抑えるものでした。女性たちは“ギャルソン・ルック”に変身。髪を短くきり、ゆったりとした丈の短いドレスを着ました。それまでのファッションの歴史にはなかったひざ丈のドレスです。この「シフトドレス」は体のナチュラルなラインを引き立たせるのではなく隠すものでした。そして細身のシルエットをつくることが主流になったのです。バインダーと呼ばれる細長い布を当てたり、バストを平らにするブラジャーでバストラインを目立たなくさせたりしました。バストを平らにするブラジャーはかぎ針で手作りされていました。一方、当時流行していた“ギャルソン・ルック”に身を包むため、たとえ妊婦でも大量生産された補正下着を使用していました。

しかし、ほどなくして“ギャルソン・ルック”は衰退し、ボディ・ラインにメリハリのある女性的なスタイルが人気になります。丈が長く、ボディコンシャスなファッションが流行し始めます。するとドレスは体のラインに沿ったものになっていきます。そして無情にも「シルエット競争」が始まるのです。1930年代を通してガードルはより魅力的なボディ・ラインを創り出すために必要不可欠なものになっていきました。ゴムの技術の進歩とコルセット職人の専門技術の発達のおかげでよりよいガードルが作れるようになります。締め付けられることなく、ボディ・ラインをスムーズに抑え込み、レースで縁どりしたスリップの下に着用します。そして種類も豊富になり、好み、体型、価格帯に合わせて選ぶことができるようになりました。

ブラジャーも進化し、ランジェリー史上初めて、胸が他の部分から切り離して考えられ、自然な輪郭を大事にするよう心配りがなされました。1935年にディプロマを取得した、ペレール(のちのシモーヌ・ペレール)や、リヨンを拠点に活躍するリズ・シャルメル氏などのコルセット職人は当時、主にオーダーメイドや限定品シリーズの商品を作っていました。1931年にキャリアを始めたもう一人のコルセット職人ギャビが作ったスタイルは、オープンカップのものが多く、非常にエレガントなタイプのものでした。後のレジャビーは、義理の兄が経営する映画館の控室で最初のブラジャーを製作したこのギャビから生まれます。

初のランジェリーセット

華やかな1950年代

本格的なランジェリーの歴史は第二次世界大戦後に始まります。この時代に入り、初めて工場製造ブランドが次々と芽を出し始めました。アンブランテ(*Empreinte*)とルー(*Lou*)は1946に創業されました。この年は、後に予言師として有名になったブルメゼ・ファキール(*Burmese fakir*)がバルバラ(*Barbara*)の名の下でガードルの通販のセールスに成功した年でもあります。1949年にはクレツ家がシャンタル(*Chantelle*)のガードルを発表。モダンで軽快で印象的なブランド名のシャンタルはすぐに成功しました。続いてレジャビー(*Maison Lejaby*)が台頭してきました。レジャビーは1951年に胸が際立つようなデザインのブラを発表し、またたく間に業界の中心的存在になりました。3年後、ペレール氏はシモーヌ・ペレール(*Simone Pérèle*)という自信の名の冠した会社を興し、リズ・シャルメル(*Lise Charmel*)はその頃リヨンにたくさんのブティックをオープンしました。そして、忘れてはならないのがオーバドゥ(*Aubade*)です。パスクエ夫妻がベルナルド博士の会社を1958年に買い上げ、オーバドゥが勢いを増します。こんなにたくさんのブランドが出てくるなんて、興奮してしまいますよね。

ランジェリーの歴史に決して無関係ではなかったのが、ディオールの影響です。1947年2月2日、当時は実質にはほぼ無名だったこのクチュリエが、初のオートクチュールコレクションで、女性が自慢したくなるような超フェミニなシルエットである「ニュー・ルック」スタイルを発表します。ディオールが発表したのは、世界中の女性がすぐに真似したくなるような下着で創り出す、まっすぐな肩のライン、ギョッと突き出したバストライン、スリムなウエストそしてシャープなヒップといったピンナップ・シルエットでした。

このようなたくさんのブランドの誕生により、それぞれが新しいアイデアを出そうと、特にブラジャーの分野でお互いにしのぎを削るようになります。各ブランドは独自の胸を強調する巧みな技術を駆使していました：例えば、バルコネットブラ（カップの横幅が狭く、上辺がほぼ水平のタイプのブラジャー）、ビスチェ、ストラップの位置を極端に離れたブラや、パッドを入れるもの、巧妙にバストラインを矯正するものなど。ファッションも、人気急上昇のバストを強調するシルエットに躍起になりました。使われる生地も変わり、洗濯が簡単で早く乾き、アイロンの必要がない白やカラーのナイロン（ポリアミド）が、ピンクやベージュのコットンに代わり急激に人気となります。黒のナイロンレースは、「セクシー」というイメージと共に人気広がります。鯨髭でできたボーンは廃れ、鉄の刃や七面鳥の羽、そしてナイロンやプラスチック製の素材が使われるようになります。ナイロンの価格が下がり、工業生産が当たり前になり、これまでにないランジェリーの民主化が始まります。それは大量消費の時代の幕開けでした。

自由の息吹

カラフルな1960年代

1960年代頃になると、ファッショントレンドは年齢やライフスタイルによって異なってきます。どんな既製服が求められているかは「ストリートの人たち」が決める時代になります。1960年代半ばから主流になるのは、子供時代を終えたばかりの若く中性的な女性のシルエットです。フェミニストが男性への服従のシンボルだとしてランジェリーを冷やかな目で見ると、若い女性は母親と同様のランジェリーを拒否します。すると商品もマーケティングもこのトレンドに適応していきました。

パンティストッキングの出現によって、ミニスカートが人気になり、スリッパやガードルが古臭いものというイメージが出来てきます。一方、ブラジャーは、1959年にデュポン・ド・ネムール (DuPont de Nemours)が発見したライクラ・ファイバーを使用し、伸縮性のあるストラップが開発されていきました。レジャビーは、多くのブランドが流行に乗るまでのしばらくの間この技術を独占します。シモーヌ・ペレールが発表した「ソロ・ミオ(Sole Mio)」のブラジャーは大変な人気となり、この技術的進歩が心地よさというものの考え方を大きく変えたことを示しています。そして、この時代はガードル機能付きショーツの人気があった時代でもあります。お腹をシェイプすることがパンツの開発を促すことにつながったのです。そして若い世代の強い希望に応え、既製服と同様にランジェリーの世界にファッションが取り入れられるようになります。アンプラントやオーバドゥがブリジット・バルドーにインスパイアされ、ピンクのギンガムチェックのような差色を取り入れるようになります。また、プリント生地が様々なランジェリーに使われるようになり、今では洋服とのコーディネートを楽しめるようになってきました。

各ブランドは、マーケティングの分野でも進化しています。例えば看板広告だけの宣伝からより幅広い広告宣伝活動を行うようになり、スケッチではなく写真を使うようになり、オーバドゥのような刺激的なキャンペーンを行うようになりました。とりわけオーバドゥの宣伝活動は時代の流れの中で、性革命が起ころうとしているということを意識させるものでした。

ランジェリーはファッションアイテム？

透け感、機能性、セクシーさを追求した1970年代

フェミニズム全盛の時代、ブラジャーの衰退が予測されていましたが、逆にそれまで以上にブラジャーはハイテク技術が駆使されるようになりました。透けた軽い生地を用い、まるで何も着けていないかのような製品が誕生しました(オーバドゥ)。シャンタルが発表した風車型のレースのブラ「フェット(Fête)」、シモーヌ・ペレールの「ペタル(Pétale)」、ルーの「ファイル(Filet)」などはベストセラーになりました。多くの女性は結局ブラを着けることに慣れ親しんでいたからでしょう。

1974年にフランスで公開された映画「エマニエル夫人」がヒットすると、さらにセクシーなランジェリーを求める声が高まりました。オーバドゥが欲求不満の男性に対して次の時代に進みましょうというメッセージを働きかけたのがこのころです。そして前留めのブラジャー「アグラフ・クール(Agrafe-cœur)」を発売しました。ランジェリーの世界では純真無垢なイメージを想起させる純白の人氣が衰え、代わりにシモーヌ・ペレールやリズ・シャルメルが売り出したセクシーな白のランジェリーが人気となります。そして1975年には、ランジェリーがファッションのような存在になる中で重要な役割を果たしたジャック・ドーマル(Jacques Daumal)のランジェリーが人気となりました。

1970年代の終盤にかけてランジェリーはまさに「ファッション」アイテムそのものとなっていきます。ランジェリーはアパレルと並んで存在感を増し、1980年代を通してファッション史にはっきりとその足跡を残していきます。

なんて、シック

1980年代：気分に合わせてランジェリーを選ぶ

ファッションはボディ・コンシャスなものが流行り始めます。着る人の意志、ダイエット、スポーツ、コスメ、そして整形手術等の力で敢えて創り上げられた理想的なボディ・ラインを際立たせるものが好まれるようになります。そしてコルセットに取って替わり美しい筋肉が重要視されるようになります。以前は実用的なものが主流だったランジェリーが、今では大胆なマーケティング戦略と共に冬物コレクションや夏物コレクションが発表され、シーズンに合わせて流行のデザインが広く手に入るようになりました。

1979年に発表されたオーバドゥのタンガや、人気の高まったボディスーツなどの新しい商品と並んで、1950年代に流行ったセクシーなランジェリーセット（ウェスト・シンチャー、ストッキング、ガーターベルト）への回帰も起こります。そして、ちょっとしたユーモアが加わって再びこのセクシーなフレンチ・ブランドのランジェリー・セットが脚光を浴びるようになります。昔は動きが制限されると考えられていた下着が、楽しみのためでなく、着心地が良いという理由で再び求められるようになったのです。世界最大のポリウレタンの製造会社インヴィスタ社のライクラ・ファイバーが様々なタイプのデザインに使われるようになります。

欲望や誘惑の象徴であるランジェリーには、様々な製品があり、そのバリエーションには限りがありません。1985年にはプリンセス・タム・タム(*Princesse tam.tam*)、1988年にはパッションータ(*Passionata*)といった新しいブランドが生まれ、これまで以上に若い女性をターゲットとした新鮮で楽しいスタイルが加わり、ランジェリーの幅がさらに広がります。今では、体型でなく自分の気分によってランジェリーを選ぶことができるようになりました。スポーティなもの、クラシックなもの、セクシーなもの、レトロなもの、グラマラスなものなど、その選択肢は未知数です。インナーをアウターとして着ることだってできてしまうのです。

ヌードランジェリー

ヌードがキーワード

1980年代の盛り上がりの後、ファッションは反動で控えめな傾向になっていきます。それまではボディを厳しく律していましたが、その抑制が緩み、柔らかさが求められるようになります。女性たちは自分自身の体を労わるようになり、ランジェリーはソフトで軽やかで優しいタッチのものになっていきます。特にマイクロファイバーを使用するようになってからは柔らかなものが主流になります。この分野でのパイオニアであるバルバラは、1984年にアセア(Athéa)を発売。肌テクスチャーを再現しつつ、通気性を確保したマイクロファイバーは、1990年代に発表されたほとんどのコレクションで主な作品に使われています。

肌そのものがファッションの表現の場として好まれるようになります。肌は、素のままで飾らないが、保護されたものであり、画一的でミニマルになってしまったファッションに対して自己表現をするためのタトゥーやピアスが映えるのです。ローライズドジーンズトレンドの当然の結果として、タンガやTバック、特にルーのとてもしゃれたものが大きな話題を呼びます。ピッタリとフィットするパンツでも下着のラインが響かないのです。しかし、刺繍やジュエリーのついたもの(オーバドゥの2001年発表のストリング・ミニマム)はこれまで人前に見せることのなかったボディパーツに視線を集めることになりました。

バストラインも、ピッタリとしたトップスで強調するようになり、バストアップブラやパッド付きのカップがかつてない程の人気になります。胸の谷間からできる限り離れたところにストラップを付けたデザインがよくディスプレイに並ぶようになります。アンプランテはほぼカスタムメイドといえる胸の大きな人用にアンダー85~115、カップはCカップからHカップまでのサイズを展開します。この幅広いサイズ展開により個人の希望に必ず合うものが見つかるようになり、そのため女性は誰もが思い切って自分の個性を表現できるようになりました。

レジャビーは、1995年にモールドカップのヌードブラ「ニュージュ(Nuage)」スタイルを発表し、10年間で1,000万個以上の売り上げの人気商品となります。他のブランドも独自のヌードブラを発売し、カラーバリエーションは肌色からパール、「ヌード」までと豊富にあります。ヌードブラはXXSサイズのTシャツの下に着けてもアウターに響きません。第二の肌効果で、このランジェリーは自分の肌に溶け込んでいくような感じです。控えめなタイプが好まれるようになります。これが1990年代半ばから主流となったトレンドの1つです。

アバンギャルド テクニック

2008年に創業80周年を迎えたレジャビーが「ヘリテージ」というレトロな下着のリバイバルのラインを発表したように補正下着のトレンドがまた起こってきています。例えば、バルバラではブリーフのようなとてもミニマリストなインナー、ハイウエストのブリーフ、補正ショーツなど30年前のものがカムバックし、再び流行のシルエットを形作っています。トップステッチとパネルの感じがレトロであり、グラマラスな印象を与えますが、何よりも最新の技術で作られています。最近、他のテクノロジーの進歩も注目を浴びています。オーバドゥとバルバラは、モールドレースのランジェリーセットを発売します。ノヨン(Noyon)とのコラボレーションにより、シームレスで画期的な軽さと着け心地を実現したランジェリーが誕生したのです。試作には何か月もかけ、細部の支えのパーツすべてのベストな配置を調整する細かな調整が行われました。遂に出来上がった製品は、限界まで追求する企業の熱意の集大成です。

ファッション・ランジェリーとクチュール・ランジェリー

女性が欲しいと思うときに欲しい物が手に入る様に、フレンチ・ランジェリーはカラー、生地、そして形の面で常にトレンドを先取りしています。ルーはいつのシーズンも、常に「最新のファッショントレンドにあったプレタポルテ・ライン」を発表したいと公言しています。だからこそ、ドット、ストライプ、ギンガム、チェック、格子縞、花柄、アニマル柄、マスキュリン・フェミニン・プリント、バロック・プリントなど、毎回モチーフが違うのです。

ここで、花柄がコレクションで繰り返し使われるモチーフだという事に気づかれるでしょう。レースや刺繍、そしてごく稀に（ほかに比べ非常にコストがかかる為）刺繍入りレースなどで花柄は使われます。この場合レースメーカーには昔ながらの知的な探究が最も要求されます。オリジナルデザインを探求し、技術を洗練させることは、非常に優れた職人技です。専門的なノウハウのハードルを上げ、常に新しい道を探しているリズ・シャルメルのように。

反対に、純粋なデザイン美学の探求は、2007年にシモーヌ・ペレール・グループによって立ち上げられたアンプリスイット(*Implicite*)のようなブランドに刺激を与えます。事実アンプリスイットは、ファッションの予測不能な変化性から離れ、独自のスタイルを創り出そうとしています。コンセプチュアルで今の時代の女性らしさに対する純粋な考えに合ったスタイルです。

この製造方法の多様性や、商品開発に対する情熱が、フレンチ・ランジェリーの豊かさを創り出し、それぞれのコレクションの多様なラインを生み出していくのです。そして世界中のお客様の望みを先取りした最高品質のアバンギャルドな製品を提供することになるのです。そのため、展示や本を通してランジェリーの歴史を振り返ることは、過去150年間に起こった重要な生理学的、社会学的、そして文化的な意味での時代の変革を思い起こすことになるきっかけになるはずです。

ノウハウ

生地と技術

この展覧会には、お客様にコルセットの製造にかかわるすべてのテーマへの理解を深めて頂きたいというもう一つの願いがあります。

デザイン（テーマ、生地、形、色などの決定）からランジェリーのプロトタイプの作成までのプロセスは、ブラジャーを構成する20～30個のパーツ一つ一つを正確にミリ単位で計測し、何度もフィッティングを繰り返さねばならない長く複雑な工程です。

ランジェリーを作る素材は世界各地から集めています。レースはカレー地方から、刺繍はサント・ガレン地方から、そして世界中からチュール、リボン、グログラン、留め具、コットン、シルク、アバンギャルドな伸縮性のある生地などなどを取り寄せています。こんなにたくさんのサプライヤーから様々なタイプの素材を取り寄せて作るのです。

そして時には染色に関する予期せぬ問題が起こったりもします。その為、一つ一つの色があっているかどうか、丁寧に職人の目でチェックするか、分光光度計を使った高度な色彩をチェックをしなければなりません。また色の他にも、生地の伸縮性やテンションも一つ一つチェックする必要があります。どんなに些細なことでも最終的には消費者の着心地に大きく影響するからです。

そして最後にランジェリーは肌の最も近い衣類であることを忘れてはいけません。肌に直接、そして常につけているものですので、アレルギー物質や発がん性物質を含んでいないか皮膚科学的にチェックする必要があります。またレースのような素材も「ピリング」テスト（ウールにこすり付けて、細かく崩れないか確認）をクリアし、連続30回の洗濯への耐性が求められます。

昔は、お客様と会うのはコルセット職人だけでした。ところが現在は製品がお客様のお手元に届けられるまでにたくさんの人々が関わっています。そして最初の構想の段階から女性がドレッサーからランジェリーを取り出すまでの複雑なロジスティックスをコルセット職人が管理しています。

フォトギャラリー

Plate Number 1

ランジェリーが上下二つに分かれてからもう100年以上が経ちます。どちらにも同じ着心地のよさ、リサーチ、イノベーション、エレガンスによる優雅さ、そして19世紀末頃からフレンチ・ランジェリーの評判を高めてきた品質の高さがあります。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

ボーン入りストレッチニット、ゴム製のアジャスト可能なガーター付き
コルセット。(1910年頃のモデル。**CHANTELLE** 所蔵品)

刺繍入りレースのパンティ。(2012年秋冬モデル。**LISE
CHARMEL** 所蔵品)

Plate Number 2

着心地の良さとしなやかさを追求し、第一次世界大戦直前には背中が編み上げタイプの
バストを支える部分とウエストを細く締め、ストッキングが下がらないように保つウエスト・
シンチャーの二つのパーツにコルセットは二つに分かれるようになりました。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

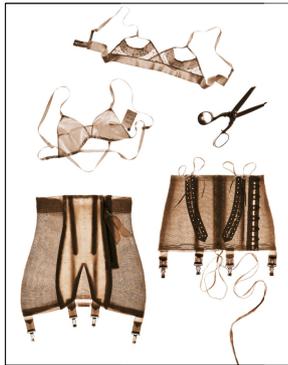
素材はストレッチニット、真珠色のボタンを前で留めるタイプで背中
部分が編み上げになったバストサポーター(bust supporter) の
リボン付き。(1905~1910年頃。**CHANTELLE** 所蔵品)

ガーターベルトのついたウエスト・シンチャー。ボーン付きのストレッチ
ニット素材。(1905-1910年頃。**CHANTELLE** 所蔵品)

Plate Number 3

第一次世界大戦の開戦と共にコルセットはなくなり、ブラジャーとガードルになります。フレンチ・ランジェリー特有の知性を必要とするものでした。

©Gilles Berquet / Lingerie Française



オープンカップのバストサポーター。肌色レースと綿じゅす製。
(1930年頃。MAISON LEJABY 所蔵品)

肌色の綿じゅす素材のワイヤーレスブラ。アジャスト可能ストラップ付き。
(1939年頃。MAISON LEJABY 所蔵品。)

フルファッションのストレッチニットでできたハイウエストガードル。補強のためのステッチ入り、ヒップ部分のボーンとガーター付。
(1940年頃。CHANTELLE 所蔵品。)

ストレッチニット素材の「妊婦ベルト」。アジャスト可能なパネルとガーター。前留め。
(1930年代。CHANTELLE 所蔵品。)

Plate Number 4

注文を受けて個人のために仕立てていたコルセティエが培った専門知識が第二次世界大戦後には大量生産をする企業に受け継がれていきます。ディオールが発表した“ニュールック”スタイルではツツとした豊かな胸とくびれたウエストが求められるようになります。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

肌色コットンサテン素材のワイヤーレスビスチェ。(1955～60年頃。LISE CHARMEL 所蔵品)

肌色コットンサテン素材のワイヤレスブラ。(1955～60年頃。LISE CHARMEL 所蔵品)

ストレッチジャガードチュールのボーンレスガードル。コットンサテンで補強され、ガーターは取り外し可能。(1949年頃。CHANTELLE 所蔵品)

Plate Number 5

1950年代は全ての女性が洗練されたおしゃれを楽しめるように、フレンチ・ランジェリーにはナイロンがふんだんに使われるようになります。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

ネイビーブルーのワイヤーブラ。アッパーカップはプリーツの入った白いナイロン製で、背面とストラップ部分が調節可能。(1950年代。LOU 所蔵品)

ボーン入りのビスチェ。白いナイロン製でアンダーワイヤーブラ付き。バックが伸縮し、調節可能なストラップ付き。(1950年代。MAISON LEJABY 所蔵品)

ネイビーブルーのナイロン製ガーターベルト。穴のあいた刺繍とネイビーブルーのリボンのエッジング。(1950年代後半から1960年代初頭にかけて。EMPREINTE 所蔵品)

ネイビーブルーのナイロンレース素材のガーターベルト。(1960年。SIMONE PERELE 所蔵品)

白地にネイビーブルーのレースとワイヤー入りメリーウイダー。スカートの下にガーターベルト。(1960年。SIMONE PERELE 所蔵品)

Plate Number 6

フレンチ・ランジェリースタイルではイマジネーションが重要視されるようになり、1950年代の中頃からはカラフルなものが出てきます。このトレンドはどんどんフレンチ・ランジェリーを特長づけるものとなっていきます。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

白とシルバー（ルレックス）のストライプのコットン素材のバルコネットブラ。アジャスト可能なストラップ付き。(1973年。

SIMONE PERELE 所蔵品)

グレーとピンクのナイロン製の花柄ワイヤーブラ。(1960年代。

EMPREINTE 所蔵品)

ガードル・ガーターベルト。花柄プリントの生地使用、二重フロントパネル。(1960年代のもの。 **EMPREINTE** 所蔵品)

ガードル・パンティ・ガーターベルト。コーラルピンクのジャーガードチュール素材。波型に縁どられた補強フロントパネル付。(1950年代。 **LOU** 所蔵品)

ガーターベルトが一体となったオープンガードル。お花のモチーフの入ったチュール、白サテンとボーンの入った補強フロントパネル。ガーターは取り外し可能。(1959年のもの。 **BARBARA** 所蔵品)

グレーとピンクのナイロン製のガードル・ガーターベルト。補強フロントパネルはグレーのナイロン製レースを使用。(1963年のモデル。 **LOU** 所蔵品)

Plate Number 7

60年代とそのリバイバル。1960年代はフレンチ・ランジェリーに新風が吹き込みます。そして1980年代以降はこれが繰り返し沸き起こるファッションのインスピレーションの源となっていきます。

©Gilles Berquet / Lingerie Française



ピンクと白のストライプ模様のコットンを使用したワイヤーブラ。
(1988/89 のモデル。 **PRINCESSE tam.tam** 所蔵品)

白とピンクのストライプのコットンを使用したプッファンパンティ。
(1960年代初め。 **EMPREINTE** 所蔵品)

ワイヤーレスブラ。ピンクのギンガムチェック（コットン）。アジャスト可能なストラップ。(1960年代。 **AUBADE** 所蔵品)

ピンクと白のストライプ模様のナイロン素材のガーターベルト。
(1960年代初め。 **EMPREINTE** 所蔵品)

ピンクのギンガムチェック（コットン）のパンティ。前述のブラとセット。
(1960年代。 **AUBADE** 所蔵品)

Plate Number 8

1960年代のクリエイティビティ。透け感、軽やかさ、楽しさ、そして全く新しい形：フレンチ・ランジェリーはファッションの流行にのっていきます。

©Gilles Berquet / Lingerie Française



ポリアミド素材のプリント生地のできたワイヤーブラ。
アジャスト可能ストラップ付き。(1960年代後半。
LOU 所蔵品)

ストレッチのきいたポリアミド製の長めのスリミング
ショーツ。(1970年。 **CHANTELLE** 所蔵品)

コンビネーション・ロングショーツ。バックレスの
ワイヤーブラ付き。(1960年代。 **EMPREINTE**
所蔵品)

アイボリー色のロンパー。(1960年代。
BARBARA 所蔵品)

Plate Number 9

1970年代前半は、より女性のニーズに応えるため、フレンチ・ランジェリーはテクニカルで軽量で、透けるようになっていきます。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

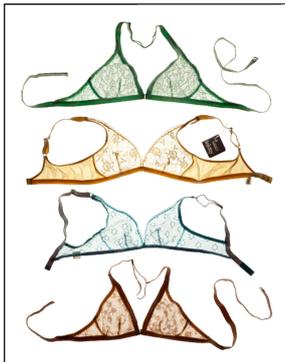
ブラウンのジャガードチュールを使用したブラ。アジャスト可能なストラップ。(1970年代初め。LOU 所蔵品)

取り外し可能なガーター付き補正ガードル。肌色のストレッチ・ポリアミド素材。(1970年代初め。AUBADE 所蔵品)

白のストレッチ・ポリアミド素材の取り外し可能ガーター付き補正ガードル。二重フロントパネル付き。刺繍入りサテン使用。(1970年代初め。BARBARA 所蔵品)

Plate Number 10

予感されていたブラの魔法の崩壊に対応し、フレンチ・ランジェリーはアウターに影響しないスタイルを創り出します。様々なネックラインに対応し、形を変えられるスタイルが登場します。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

ワイヤレス・バックレスブラ。ナイルグリーンのナイロンレース使用。(1970年代初め。AUBADE 所蔵品)

ワイヤレスブラ。黄色のナイロンレース使用。(1970年代。MAISON LEJABY 所蔵品)

ワイヤレスブラ。ターコイズブルーのナイロンレース使用。(1970年代。EMPREINTE 所蔵品)

ワイヤレス・バックレスブラ。真珠色のレース使用。(1970年代初め。AUBADE 所蔵品)

Plate Number 11

1980年代からは、ワードローブは黒が主流になり、美しく立派なボディラインを魅せるボディスーツが誘惑のシンボルとなります。ライクラ・ファイバーにより着心地のいいボディスーツの製作が可能となります。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

ポリアミドとライクラ・ファイバーを使ったブラック・ボディスーツ。(1980年代。AUBADE 所蔵品)

モールドNoyonレースのワイヤーブラ。(2012年。BARBARA 所蔵品)

コットンとライクラ・ファイバーのボディスーツ。ワイヤーブラ付き。(1989/90年秋冬モデル。

PRINCESSE tam.tam 所蔵品)

ライクラ・ファイバーニット素材のボディスーツ。(2012年春夏モデル。IMPLICITE 所蔵品)

Plate Number 12

ひだ、刺繍、レース…ロマンティックな白と差色で新鮮で柔らかな印象のランジェリーを演出することが流行します。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

花柄のバストアップ・ストラップレスブラ。マイクロファイバーとレース使用。(2006年。PASSIONATA 所蔵品)

白いコットンとレース使いのビスチェ。(1980年代。LOU 所蔵品)

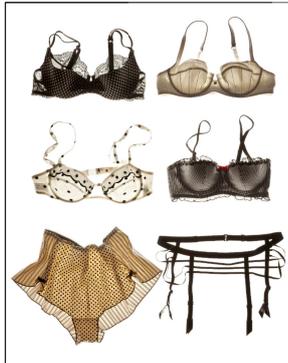
黄緑色の刺繍入りチュールを使ったキャミソール。(2005年。PASSIONATA 所蔵品)

ライクラ・ファイバーとレース使いの白のショーツ。(1980年代。AUBADE 所蔵品)

ホワイトレースのロンパー。(1980年代。AUBADE 所蔵品)

Plate Number 13

マスキュリン・フェミニン、ドット、ストライプ模様、さらにはレザー使いなど、フレンチ・ランジェリーはファッションになっていきます。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

左から右、上から下の順で：

カリレースで縁どりしたアップercup付きドット模様のバルコネットブラ。(2011年。**MAISON LEJABY** 所蔵品)

白い子ヤギの皮を使ったバルコネットブラ。(LISE CHARMEL 所蔵品)

白いコットンに黒いドットのアンダーワイヤーブラ。(1989年春夏モデル。**PRINCESSE tam.tam** 所蔵品)

ブラックコットン地に白ストライプのバルコネットブラ。(2010年モデル。**PASSIONATA** 所蔵品)

黒いコットンに白いストライプのバルコネットブラ。(2010年。**LOU** 所蔵品)

アイボリーカラーのシルクにドットとストライプ模様のタップパンツ。(1980年代モデル。**LOU** 所蔵品)

黒のガーターベルト。(2011年春夏モデル。**IMPLICITE** 所蔵)

Plate Number 14

テーマに沿ったバリエーションが豊富なパンティは、選ぶ楽しさがあります。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

左から右、上から下の順で：

透け感のあるベージュのT-バック。(CHANTELLE 所蔵)

チャコール・ブラックのT-バック。(2012年春夏モデル。

IMPLICITE 所蔵品)

「アチチュード」ラインのTバック。(2005年。LOU 所蔵品)

シームレスTバック。(2012年。BARBARA 所蔵品)

ストライプ模様のコットンTバック。(2002年。LOU 所蔵品)

ストライプ模様のコットンTバック。(2007年。LOU 所蔵品)

ブラウン・ポリアミッドにビビッドカラーのストライプの入ったTバック。

(2004年。LOU 所蔵品)

Plate Number 15

最新技術で作られた製品。アウターに響かず、かつてない素晴らしく着け心地のよいブラは、とてもやわらかく、ナチュラルなバストラインを形作ってくれます。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

保形性に優れたカップと透明ストラップのベージュ・ブラ。(2001年。

PASSIONATA 所蔵品)

透け感のあるベージュのモールドカップブラ。(2010年春夏モデル。

IMPLICITE 所蔵品)

ソフトで保形性に優れたカップブラ。ポリアミッドとライクラ使用。

(1972年モデル。CHANTELLE 所蔵)

白のマイクロファイバーを使ったブラ。(1980年代モデル。

BARBARA 所蔵品)

ソフトで保形性に優れたカップブラ。ベージュ。(1995年モデル。

MAISON LEJABY 所蔵品)

Plate Number 16

エレガントなレースと刺しゅう入りのチュール使いで肌にタトゥーをしたような効果が印象的なデザインです。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

刺繍入りチュールのバルコネットブラ（Gian Luigi Locatelliの刺繍）。(2005年モデル。CHANTELLE 所蔵品)

タトゥーのようなレースのアップリケが施されたモールドカップのバルコネットブラ。(2001年モデル。MAISON LEJABY 所蔵品)

無地のチュール地のショーツ。同色の刺繍が施され、タトゥー効果のため他の色でプリント。(2011年モデル。CHANTELLE 所蔵品)

Plate Number 17

オートクチュールなフレンチ・ランジェリーは女性の永遠の憧れです。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

高級レースデザインのモールドカップブラ。(2012年モデル。LISE CHARMELE 所蔵品)

高級レースデザインにシルバーのメタリックピースが埋め込まれたモールドカップブラ。(2012年モデル。LISE CHARMELE 所蔵品)

ブラウンとブラックのセパレート・メリーウイドウ。ナイロン、ポリウレタン、ポリエステル素材。(2008年モデル。SIMONE PERELE 所蔵品)

Plate Number 18

シルバーやインク・ブルーといったクール・カラーで大人の女性を演出することができます。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

高級レースデザインにシルバーのメタリックピースが埋め込まれた モールドカップブラ。(2012年モデル。LISE CHARMEL 所蔵品)

ツイード調刺繍入りレースのバルコネットブラ。(2012年。

MAISON LEJABY 所蔵品)

「ナイトフォール」をイメージしたインク・ブルーとブラックのワイヤー入りブラ。(2011年秋冬モデル。IMPLICITE 所蔵品)

Plate Number 19

刺繍でもプリントでも、花柄は女性らしいランジェリー・セットアップの定番です。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

深紅のワイヤー入りブラ。(2012年。SIMONE PERELE 所蔵品)

白レースのショーツ。(2008年より現在も製造中。BARBARA 所蔵品)

花柄プリントのモールドカップをマルチカラーの刺繍入りチュールで覆ったデザインのブラ。(2002年。MAISON LEJABY 所蔵品)

刺繍入りレースのショーツ。(2007/2008の秋冬モデル。BARBARA 所蔵品)

Plate Number 20

フランスの国旗の色のランジェリーを集めました。



©Gilles Berquet / Lingerie Française

ロイヤルブルーのワイヤーブラ。(2012年。BARBARA 所蔵品)

透明ストラップのモールドカップブラ。白いひし形模様がタトゥーのよう。(2002年。MAISON LEJABY 所蔵品)

マイクロファイバー・ストレッチニットの中に密かにアンダーワイヤーが入ったストラップレスブラ。テキストロニック・レース使用。

(2011/12年 秋冬モデル。PRINCESSE tam.tam 所蔵品)

ナイロン素材の補正ブリーフ。レース・インサージョン付き。(1990年代後半。PASSIONATA 所蔵品)

イベント概要

展覧会会場

BA-TSU ART GALLERY (バツ・アート・ギャラリー)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-11-5

キャンペーンウェブサイト : www.lingeriefrancaise.jp

開催日程 : 2014年7月20日 (日) ~ 7月28日 (月)

開催時間 : 20日 (日) 13:00-21:00

21日 (月) - 27日 (日) 10:00-21:00

28日 (月) 10:00-17:00

※22日、23日はイベントのため16時でクローズします。

入場料 : 無料

プレスの方からのお問い合わせ先 (日本)

キャンドルウィック株式会社

URL: <http://www.candlewick.co.jp/>

電話番号 : 03-3498-2770

担当 : 中尾 : nakao@candlewick.co.jp

ジェマ : gemma@candlewick.co.jp

実行委員会

- キュレータ - Catherine Ormen
- ボードメンバ - Christine Beauduc - Promincor - Lingerie Française
Karine Sfar, Ulyana Sukach, Laurence Bazin, Yaryna Dorozhivska - Fédération de la Maille & de la Lingerie

フレンチ・ランジェリー協会 コンタクト (フランス)

PROMINCOR - LINGERIE FRANÇAISE

+33 1 55 90 04 00

promincor@lingeriefrancaise.com

www.lingeriefrancaise.com